

1 単元 生命のつながり（1）－植物の成長－

2 目標

植物の成長の実験結果と整えた条件を関係付けて考察し、自分の考えを表現することができる。

3 情報の交流を行う場面と期待される効果

1人が1苗ずつ整えた条件で育てた植物の観察や撮影した記録を基に、自分の育てた苗の特徴をまとめ、それらを班で伝え合うことで情報の交流を行い、気付いたことを学級全体に伝えるために必要なものを選び出す。これにより、客観的に捉えた根拠のある考えをもつことができる。

4 実践の様子

5人組の班を作り「日光あり・肥料なし」を基準にして「日光あり・肥料あり」「日光なし・肥料なし」に加え、子どもの疑問から出た「光をずっと当てる・肥料なし」「日光あり・校庭の土」の5つのパターンを用意し条件を変えて観察していくことにした。【資料①】

	A	B	C	D	E
日光	○	○	×	ずっと当てる	○
肥料	×	○	×	×	土

【5つの苗のパターン】

また、全員が役割をもてるように、1人が1つの苗を育て、毎日撮影と記録を廊下に掲示し、班で結果をまとめることにした。【資料②】



【廊下に掲示した写真】

資料②

次に、2週間ほど撮りためたところで、他の班の同じ条件で育てている友達同士が集まり、自分たちの苗の特徴をまとめる活動を行った。他の条件の苗の写真と比べながら自分たちの苗の特徴を書き出していた。

写真を選ぶ場面では、「こっちの写真の方が分かりやすいよ。」「長さを伝えるにはこれがいいと思う。」など、特徴を理解した上で伝えるためには、どの写真を使うと伝わりやすいか話し合いながら決めることができた。【資料③】

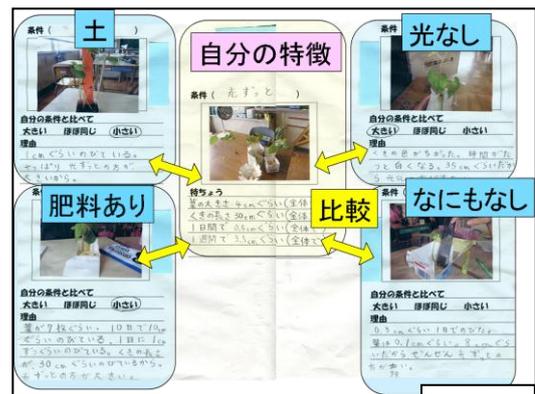


こっちの写真の方が分かりやすいよ。

資料③

【写真を選ぶ場面】

そして、班に戻り、上記の考えを基に写真を使って特徴を伝え合った。自分が育ててきたことと、同じ条件の子たちと特徴を吟味したことにより、どの子も積極的に自分の考えを伝える姿が見られた。また、他の条件の情報を詳しく知るためにはその条件の子から聞くことが必要なので、全員で話し合い、プリントにまとめることができた。【資料④】



【条件の特徴をまとめたプリント】

資料④

5 成果と課題

- 個々の記録を基に、同じ条件の子たちと話し合って写真を選んだり特徴をまとめたりしたことにより、客観的に捉えた根拠のある考えをもつことができた。さらに、このことにより個々の子どもが自信をもって班で話し合い、結論を出すことができた。
- 個体差による多少の違いも子どもにとっては大きな違いであり、写真選びで自分の写真にこだわりすぎてしまった子どもがいた。また、時間の流れで友達と日時のズレがあり、選ぶ際に迷う子どもがいた。